

説明同意文書の補足用語集

歯周病：歯周病は、細菌の感染によって歯茎が赤く腫れたり歯が抜け落ちたりする病気です。

口の中には 400～700 種類程の細菌がいるといわれていますが、通常は悪さをしません。しかし、不十分な歯磨きや甘い物の食べ過ぎなどによって、歯と歯茎の間に細菌の集まりである歯垢ができると、細菌が増えて歯茎に炎症が起きます。

脂肪由来幹細胞：脂肪組織の中に存在する間葉系幹細胞のことで、様々な細胞に分化する能力を有することや、サイトカインを産生する能力を有することから、再生医療分野で使用されております。

iPS 細胞：京都大学の山中伸弥教授ら（ノーベル賞受賞）が世界で初めて作製した人工多能性幹細胞です。様々な細胞に分化できる能力を有していますが、iPS 細胞を目的とする細胞に分化させる過程で目的外の細胞も含まれてしまう可能性を否定できないため、一般の医療機関やクリニックで実施する再生医療で使用することは現時点では非常に困難です。ですが、多くの大学・研究機関等で精力的に研究が進められており、iPS 細胞を用いた臨床研究も実施されております。

細胞培養加工施設：採取した脂肪組織から脂肪由来幹細胞を取り出し、培養を実施する施設です。無菌的な環境を維持するために、清浄度が管理された空間で細胞培養を行います。

歯周病の標準治療：歯周病治療は歯石除去や切開法などがあり、保険適応されています

歯周外科治療：重度の歯周病では、歯を支えている骨が溶け、歯が自然に抜けてしまう、もしくは抜かざるをえない状況になる場合があります。歯周基本治療により症状の改善が全く見られなかった場合は、歯周外科治療を実施する方法があります。歯周外科治療は「フラップ手術」と「歯周組織再生療法」があります。

フラップ手術：歯茎を切開して開き、歯根の先まで目で見える状態にして細菌や歯石など歯周病の原因となる汚れを徹底的に除去する手術です。つまり、歯周ポケットの深い部分まで見える状態にして細菌や歯石など歯周病の原因となる汚れをとっていくということです。

歯周組織再生療法：リグロスやエムドゲインという医薬品を用いる方法です。

ヒトパルボウイルス B19：ヒトパルボウイルス B19 は小児でよくみられる両頬の紅斑を特徴とした伝染性紅斑(通称リンゴ病)の原因ウイルスです。潜伏期間は 10-20 日間であり、頬に境界鮮明な紅斑が出現し、続いて手足に網目状、レース状の発疹が見られます。

変異型クロイツフェルト・ヤコブ病：変異型クロイツフェルトヤコブ病は極めて稀におこる病気で、認知症の症状を引き起こす病気であり、一般的には狂牛病の動物を食べることによってかかると言われています。再生医療においては、ヒト血清アルブミン製剤の製造工程で一定の不活化・除去処理が行われており、感染症に対する安全対策が講じられていますが、変異型クロイツフェルト・ヤコブ病の原因となる異常プリオンは排除されずに残存するリスクが極僅かなながらあるため、それらの感染の可能性を否定できません。

脂肪組織採取部位の詳細：脂肪組織は「口腔内外斜線下縁頬側部」又は「頬骨下部の口角から耳介・下顎骨下縁を結んだ範囲内」から脂肪組織を採取いたします。具体的な個所は下図のとおりです。

